

子どもの未来応援助成交付金 報告書

表題	: ツリークライミング体験会
学校名	: 上伊那農業高等学校
活動グループ名	: コミュニティデザイン科 里山コース
担当教諭名	: 宮澤 正 新井 理宏
活動人数	: 16人

(1) 活動を始めた理由

令和4年12月19日の世代間交流をきっかけに、児童達だけの作品制作ではなく、高校生が先生役となった「児童オリジナル経木作品制作」を含めた木育学習を1年間展開している。これらの活動を通して、小学生が持っている「探究心」を高めつつ、思いを「形」にする面白さを学習させたい。

また、富県小学校にあるイチョウの木を使ったツリークライミング体験会を通して、6年間過ごした小学校にある木々に親しみを持つとともに、今後の森づくり、ものづくり、木の利用について考えたりする機会にもしたいと考え、実施した。

(2) 活動内容

- (1) 新聞紙ホッケー (富県小学校)
- (2) 上伊那農業高校 学校見学 (上伊那農業高校)
- (3) 高校生製作の経木作品発表会 (富県小学校)
- (4) 上伊那農業高校第二農場にて経木用アカマツ伐倒・経木加工 (上伊那農業高校)
- (5) 経木生産見学 (動画)・デザインアップ (上伊那農業高校)
- (6) 試作品製作3回実施 ((富県小学校)
- (7) ツリークライミング体験会 (富県小学校)**
- (8) 展示用 (持ち帰り用) 作品製作3回実施 (富県小学校)

(3) 活動の様子 写真 (ツリークライミング体験会のみ掲載)



木の診断方法について (講義)



木となかよくなる体操



まずは木に気持ちを込めて



ぐんぐん登っていきました



高校生はフィールド外から応援



最後に一枚

(4) 活動結果

①新聞記事

学校の大イチョウと一体となり、ツリークライミングを楽しんだ富県小6年生

伊那市富県小学校6年生は2日、ツリークライミングを体験した。学校のシンボルでもある校庭脇の大イチョウに包まれながら、ロープを頼りに「空中散歩」。

樹上の別世界を満喫した。2012年、15年のツリークライミング日本チャンピオンで伊那市高遠町の宇治田直弘さん(46)ら、ツリークライミングジャパンのスタッフ

富県小6年生 “空中散歩”

「本当に違う世界だった」「もう一回やりたい」と達成感に浸る子どもたちの姿に、宇治田さんは「この経験が成長した時にふるさとを思う一つの引き金になれば」と目を細めた。

(勝村誠之)

タツフが手ほどき。子どもたちは専用のハーネスを着用し、大イチョウにつるされたロープを使って足を踏み込みながら樹上を目指した。初めは慣れない姿勢やロープの扱いに戸惑ったり、高さを怖がりたりしていたが、みるみると上達。スリルも味わいながら、どつしりと構える大イチョウと一体となった。

枝をすり抜けて10メートルの高さまで登り詰めた織井劉一君(11)は「一番上の方まで行くと、木が本当に近く感じた。小学校6年間のうちに、このような貴重な体験ができてよかった」と笑顔。

②児童の感想

- ・高いところが苦手だけど、登ったら楽しくて、ぐんぐん登りたくなった。
- ・もう一回やりたい。今度は違う木にも登ってみたい。
- ・手ではなく、足で蹴って登るコツを知った。
- ・将来は木に関わる仕事につきたい。
- ・疲れたけど、面白かった。
- ・2回目のチームは自分たちのチームより上手だった。